

○小西洋之君 立憲民主党・民友会の小西でございます。

私も、まず、米朝首脳会談についてから質問をさせていただきます。

十二日に発表されました米朝首脳による共同声明の意味でありますけれども、河野大臣に伺いますが、朝鮮半島の完全な非核化という言葉がこの共同声明に三つ記載されているんですけれども、その意味として、これは韓国側の非核化も含むのか。すなわち、在韓米軍が、今は持ち込んでいないというふうにアメリカ、韓国両政府が言っているというふうに理解しておりますけれども、在韓米軍が持ち込む核兵器、そうしたものも排除する、すなわちそうした義務をアメリカも負っている、そのように理解をしていいのかどうか。

これについて、大臣が出席されている十四日の日米韓の外相会談でアメリカのポンペイオ國務長官からどのような説明がされ、それに対して河野大臣が政府として、河野大臣自らがどのような確

認をしているのかについて具体的に説明をお願いいたします。

○國務大臣（河野太郎君） これにつきましては、二〇〇五年でしたかの六者会合の中で、韓国には核がなく、在韓米軍にも核がないので、朝鮮半島の非核化というのは北朝鮮の非核化であるということで確認が取れておりますので、そのように理解しております。

○小西洋之君 今答弁いただいた内容をポンペイオ國務長官から大臣が説明を受け、あるいは大臣がそのように確認したということでしょうか。

○國務大臣（河野太郎君） 特に外相会合でこれが話題にはなっておりません。

非核化というときに、北朝鮮の非核化であるというふうに認識しております。

○小西洋之君 外相会合では、十四日ですね、日米韓の、確認をしていないという、これは初めての答弁だと思えますけれども、なぜ確認しなかったんですか。

○國務大臣（河野太郎君） 六者会合で、韓国には核兵器がなく、在韓米軍も核兵器を持っていないということは確認しておりますので、朝鮮半島の非核化イコール北朝鮮の非核化ということでございます。

○小西洋之君 この米朝の共同声明ですけれども、

第三項で、板門店宣言ののちとして北朝鮮は朝鮮半島の完全な非核化に向けて取り組むというふうにされております。

板門店宣言ですけれども、私の手元にあるのが外務省の発表した日本語訳でございますけれども、南北は、完全な非核化を通じ、核のない朝鮮半島を実現するという共通の目標を確認した、南北は、北側がとっている主動的な措置が朝鮮半島の非核化のために非常に意義のある重大な措置であるという点で認識を共にし、次です、今後、それぞれが自らの責任と役割を果たすこととしたというふうに書いてありまして、普通に読むと、当然、これは北朝鮮と韓国の宣言ですけれども、声明ですけれども、それぞれが自らの責任、韓国も責任と役割を果たすということを書いてあるというふうに読めます。

で、その板門店宣言ののちとして北朝鮮は朝鮮半島の完全な非核化に向けて取り組むと米朝の首脳会談で書いてあるわけでありまして、大臣が言っているように、六者会合でそうした認識が共有されていたなどということをもってして、米朝首脳会談の共同声明が韓国側に非核化について何らの責務、アメリカ側が何らの責務を負わないということとは到底理解、解釈できないんだと思うんですが、いかがでしょうか。

○國務大臣（河野太郎君） 板門店宣言文の中が

どのようなになっているか、内容や表現ぶりについて当事者でない日本がお答えをする立場にはございませんが、当然に北朝鮮による具体的な行動が行われれば、アメリカを中心とする国際社会はそれが確認されれば経済制裁を解除するという事になっておりますから、そういうことを含め、北朝鮮がやらなければいけないこと、国際社会がやること、それはお互い理解をしていると考えております。

○小西洋之君 米朝首脳会談の共同声明も板門店宣言も、日本はそれぞれ、日本は持ち物か、日本の所有物かという意味では所有物でない。そういう意味では当事者ではないということは明らかであるので、ただ、だからこそ六月十四日、大臣がわざわざそのためにこの委員会、当初筆頭間で想定されていた委員会の開催を見送って大臣に六月十四日韓国に行っていたら、その米朝首脳会談の中身、決まったことについて確認をしていたら、国会のために、そして国民のために。

にもかかわらず、大臣はこの北朝鮮の完全な非核化が韓国、アメリカにも責務を課したものであるかということについては一切確認をしなかった。なぜ確認しなかったんですか。

○国務大臣（河野太郎君） 先ほど申し上げておりますように、朝鮮半島の非核化イコール北朝鮮の非核化でございますので、そういうことござ

います。

○小西洋之君 答弁になっていないと思いますが、次の質問に移らせていただきます。

同じく、関係しますけれども、この米朝の共同声明の中にある完全な非核化、先ほど藤田委員の追及にもございましたけれども、完全なという英語はあるんですけれども、検証可能なVですね、CVIDでいうところの。で、不可逆的なIという言葉はありませんけれども、この検証可能なV又は不可逆的なI、このCVIDのVとIが含まれていると、意味として含まれていることを十四日の日米韓の外相会合において河野大臣自らポンペイオ国務長官に確認をした、あるいはポンペイオ長官からそういう明示の具体的な説明があった、そういう事実関係について答弁ください。

○国務大臣（河野太郎君） ポンペイオ国務長官は、完全な非核化イコール検証可能であること、不可逆的であることを含むというふうに述べております。

また、日米韓の外相会合では、大量破壊兵器及び全ての射程の弾道ミサイルのCVIDがなければ経済制裁を解除しないということは確認しております。

○小西洋之君 今の答弁はミサイルですね。ミサイル、長距離、中距離、短距離含めて、それはCVIDということを国務長官が、ポンペイオ国務

長官が十四日の外相会合では述べたというふうにおっしゃいました。

ただ、その先の方です、初めの方ですね、非核化についてポンペイオ国務長官は日米韓の外相会合、十四日の外相会合で、この完全な非核化というこの米朝共同声明に検証可能な、不可逆的なIということとは意味として含まれているということ、ポンペイオ国務長官は外相会合の場では発言していないと、そして河野大臣も確認していないと、そういう事実関係でよろしいですか。

○国務大臣（河野太郎君） ポンペイオ国務長官は、完全な非核化は検証可能であること、不可逆的であることを含むんだということを様々な場面でおっしゃっております。

外相会合の中では、大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全かつ検証可能な、不可逆的な廃棄がない限り経済制裁は解除されないということを確認しております。

○小西洋之君 ポンペイオ国務長官が、その完全な非核化には検証可能な、また不可逆的なIというものには含まれるというふうな外相会合の後の記者ブリーフで述べたというようなことは外務省資料で私も確認しております。

三回目の質問です。外相会合によって、十四日の、ポンペイオ国務長官は河野大臣に完全な非核化という言葉には検証可能な、また不可逆的なI

いう意味が含まれているとは説明しなかったし、河野大臣も含まれているのかとは確認しなかった、そういう事実関係で、事実でよろしいですか。

○国務大臣（河野太郎君） ポンペオ国務長官は様々な場面でそういうことをおっしゃってありますので、それがどの場面だったか、今手元に何の記録もございませんので、お答えのしようがございません。

○小西洋之君 河野大臣が出席された日米韓の外相会合において、ポンペオ国務長官がそう述べたか、そして大臣がそう確認したか、大臣が御存じの事実は聞いていただけです。明確に、四度目です、答弁ください。

○国務大臣（河野太郎君） ポンペオ国務長官とは度々会談をしておりますし、電話会談もしておりますので、どの場面でどうだったかというのを今記録のない中で申し上げるわけにはいきません。（発言する者あり）

○委員長（三宅伸吾君） 速記を止めてください。

○委員長（三宅伸吾君） 速記を起こしてください。

○小西洋之君 五度目ですけれども、日米韓の外相会合において、ポンペオ国務長官が完全な非核化という言葉には検証可能及び不可逆的などという言葉が意味として含まれるというふうに述べたの

か、説明したのか、また河野大臣がそのことについて長官に対して確認したのか、事実関係について答弁をください。

先ほど、核の持込みについてはその三か国外相会合の中身を明確に答弁されました。こちらが答弁できないという理由はないはずだと思います。答弁をお願いいたします。

○国務大臣（河野太郎君） 日米韓の外相会合の中では、大量破壊兵器及びあらゆる射程のミサイルについての完全かつ検証可能で不可逆的な廃棄がなければ経済制裁を解除しないということは確認をしております。どの段階でポンペオ長官が完全な中に検証可能あるいは不可逆的などという言葉を含むというふうにおっしゃったのか、それは、その前のワシントンなのか、あるいはそのときなのか、日米韓外相会合の後、日米の外相会合をやっておりますので、どこで具体的にそうおっしゃったのか、今記録はございません。

○小西洋之君 大臣、なぜ答えないんですか。非核化のことを聞いているんです。ごまかさないでください。ミサイルのことを聞いているわけじゃないありません。非核化です。非核化について、ポンペオ国務長官が検証可能かつ不可逆的などということはこの米朝共同声明の中に意味として含まれていると述べたのか。そして、大臣は確認しなかったんですね。

もうこれ、六回目、七回目の質問ですけど、何しに行つたんですか。国会日程を大臣の外交日程のためにやめて、なぜ確認をなさらなかったんですか。確認をしないということに外交的な配慮があるんだったら、それを説明できる範囲で御説明をしてください。事実関係を答えてください。

○国務大臣（河野太郎君） ポンペオ国務長官が六月の十三日の時点で、完全な非核化は検証可能であること、不可逆的であることを含んでいるというふうにおっしゃっております。日米の外相会談でそうおっしゃったか、日米韓の外相会談の中でそう繰り返されたか、それは記録が今手元にございませんですが、ポンペオ国務長官は六月十三日の時点でそういうふうにおっしゃっております。

○小西洋之君 そのポンペオ国務長官は、十三日というのは、私も外務省資料、今手元にありますが、これ記者ブリーフですよ。記者ブリーフの中身で言っている言葉をもってそれを事実として、外相会合の場では一言も尋ねもしなかった、聞きもしなかった。河野大臣は、国民のために、国家のために外交をやる決意はあるんですか。

○国務大臣（河野太郎君） ポンペオ国務長官とは韓国で何度かお目にかかって話をしておりますので、どちらでそうおっしゃったのかは記録がないから分からないというふうに申し上げているだけでございます。

○小西洋之君 御自分の外相会合での発言行為を聞いているだけで、記憶がないというのは全くの御飯答弁以上の、全くの答弁拒否そのものだと思います。

次の質問に行かせていただきますけれども、政府はこの米朝の首脳会談以前には、これは当外交防衛委員会での三月二十三日の河野大臣の答弁などにもあるわけですが、北朝鮮がCVIDに基づき非核化、短距離を含めたミサイルの放棄、拉致問題の解決について具体的な行動を取ったときに初めて経済制裁、制裁の在り方について議論する、それまでは国際社会で圧力を掛け続けるという認識を日本、アメリカ、韓国で共有しているということ、これを国会で明らかにしておりますけれども、その認識、また三か国の認識の共有状況については変更はないということでしょうか。

○国務大臣（河野太郎君） 今日、度々申し上げておりますように、全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全、検証可能な、かつ不可逆的な廃棄が行われな限り経済制裁の解除はないという事は確認しております。

○小西洋之君 もう一度、非核化とミサイルですね、全てのミサイル、そして拉致問題、この三つについて、それぞれについて具体的な行動を取らない限り制裁解除は議論すら始めないという三か

国の認識は今変わらないということでしょうか。

○国務大臣（河野太郎君） 経済制裁に関しては、大量破壊兵器及びミサイルのCVIDがない限り経済制裁は解除しないということでございますし、拉致問題が解決されない限り、そして核とミサイルの問題が解決されない限り国交正常化はなく、国交正常化がない限り経済支援はないということでございます。

○小西洋之君 それはもう完全なごまかし答弁で、大臣の、政府の従前の答弁は、三か国で、非核化とミサイルの放棄、拉致問題、それぞれについて具体的な取組がない限り制裁解除は議論すらしないというのが三か国の共通の考えだということに答弁していただんですね。ところが、今大臣がおっしゃったのについては、拉致問題については、日朝間、日朝間は拉致問題が解決しない限り国交正常化しないというふうに、こう議論をすり替えているんですね。

じゃ、別の角度から聞きますけれども、ずばり聞きますが、十四日の日米韓の外相会談で、今私達が質問をした非核化、あらゆるミサイル、そして拉致問題の解決、それぞれについて具体的な行動が北朝鮮からない限り、この三か国においては経済制裁、制裁を緩和を議論すらしめない、そういう認識について三か国の大臣間で河野大臣の発言に

よりしっかりと認識をした、そういう取組、事実がありますか。

○国務大臣（河野太郎君） 繰り返しになります。が、全ての大量破壊兵器とあらゆる射程のミサイルのCVIDがない限り経済制裁は解除しないということを確認しておりますし、日本政府として、核、ミサイル並びに拉致問題が解決されない限り国交正常化はない、国交正常化がなければ経済支援もないということでございます。

○小西洋之君 今の答弁だと、拉致問題については日朝間の問題に落ちちゃっているわけですよね。そうじゃないわけです、前の答弁は、三か国の共通認識だということに答弁されていたわけですから。

では、その十四日の日米韓の外相会合においては、拉致問題について具体的な取組がない限り経済制裁について緩めることは議論すらしめないということについては、確認はされていないということでしょうか。そういう議論を三者会談でやりましたか、行われましたか。

○国務大臣（河野太郎君） 全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程のミサイルのCVIDが行われな限り経済制裁は解除されないという事を確認をし、核、ミサイル、拉致問題が包括的に解決されない限り国交正常化並びに経済支援はないということでございます。

○小西洋之君 先ほどから何度聞いても核心のことは全然答弁をされないんですが、日米韓の十四日の外相会合で、河野大臣は何をしに行つて、何をしたんですか。完全な非核化についての核心的な論点を二つとも自ら確認していない、拉致問題について、解決について具体的な行動がなければ、この三か国として経済制裁を緩める、そういう議論をしない、そういう三か国の共通認識だと国会で何度も答弁していたことについて、再び三か国で共通認識を固めるために、新たにするために、そういう取組は一切していないということですか。

○国務大臣（河野太郎君） 米朝会談を受けて、今後の国際社会の取組、そして日米韓三か国の取組、並びに日米の両国で行つていくかという会談を行いました。

○小西洋之君 米朝首脳会談以前に日本だけが金委員長と首脳あるいは政府要人が会えていない、そして米朝首脳会合以降も主権外交が行われていないということについて厳しく批判をさせていただきたいと思えます。

残りの時間で防衛省に質問をさせていただきませんが、ちよつと時間がないので政府参考人で結構ですけれども、幹部自衛官の私についての暴言事件なんです、質問通告のものをもうまとめてさせていただきますかと思えます。

防衛省は、シビリアンコントロール上は何の問題なかった事件だというふうに言っているわけですが、ごさいませけれども、当事者である私に対して、私は、この委員会の場で、現に議員活動、様々、あの事件によって影響を受けている、マイナスの影響を受けていると言っているんですけれども、そうしたことを私に確認もせずになぜそのような見解が言えるのかどうか。私の直接被害ですね。

もう一つは、二つ目の質問ですけれども、間接被害。この暴言事件によってネット上で様々な誹謗中傷の書き込みがされて、私どもは、それに対して法的措置ですね、我々の先輩である横浜の市長である中田宏さんが私に対する誹謗中傷の書き込みをして、それに対する法的措置も検討するなどしておりますけれども、そうしたようなことに手間を取らされるようなこと、こういうことも含めてシビリアンコントロールへの妨害ではないかと思うんですけれども、防衛省の見解はいかがでしょうか。

○政府参考人（武田博史君） お答えいたします。国会での審議の場における国会議員による防衛省・自衛隊に関する質疑は国会による防衛省・自衛隊に対する監督機能の表れであり、国会による文民統制を機能させる上で重要な役割を果たすものであると考えております。このことについては、繰り返し申し上げておるところでございます。

今回、幹部自衛官が小西議員に対して暴言を含む不適切な発言を行ったことについては、防衛省・自衛隊として全く是認しておらず、あつてはならない規律違反として処分を行い、今後こうした事案を断じて繰り返さないよう再発防止策をしっかりと行つていく考えでございます。

また、こうした事案が起きたことにつきましては、小西議員に対しては大変申し訳なく思っております。処分を受けた幹部自衛官は、今回の事案を通じ、小西議員に対し誠に申し訳ないことをしたと深く反省をしております。

すなわち、この自衛官は供述において、このことは公表資料にも書かせておりますけれども、小西議員が安全保障政策について具体的にどのような御意見を持たれ、どのような御主張をされているのか、どのような活動をされているのかについては存じ上げておりませんでした、それまで小西議員のブログやSNS等を見たことがなく、小西議員が外交防衛委員会の委員であることや防衛省設置法や給与法に賛成しているということも知りませんでしたとした上で、五月四日に調査官から小西議員が本人に渡してほしいということで、小西議員の国会質疑をいただきました、小西議員が国会質疑等の場で主張されている具体的な内容を初めて拝読し、小西議員は、決して自衛隊員に対して批判的なことをおっしゃっているのではなく、

むしろ自衛隊員に敬意を払っていただいている、あくまでも我々を守ろうとの信念をお持ちなのだということを知りました、これまで誤解していたので、私の考えが安直であったと思います、こうした認識を述べております。

その上で、この度は……

○委員長（三宅伸吾君） 時間が参りましたので、答弁は簡潔に願います。

○政府参考人（武田博史君） 小西議員の具体的な思いや活動内容を知らないまま、大変失礼な発言を行ってしまい、大変恥ずかしく、誠に申し訳ないことをしたと深く反省していますと、こう話しております。

今回の事案については、総合的に考えて、私どももいたしましたしては、国会による文民統制が否定されたとかその統制が機能しなくなったということにはならないと考えております。

○委員長（三宅伸吾君） 時間が参りました。

○小西洋之君 時間なので終わります。ありがとうございました。